

# はばたけ群馬・県土整備プラン

2013-2022

群 馬 県



## はじめに



平成 20 年 3 月に、本県の社会資本整備の 10 年間の計画として「はばたけ群馬・県土整備プラン 2008-2017」を策定し、5 年が経過いたしました。

この間、非常に厳しい財政状況ではありましたが、プランに基づき着実に社会基盤整備を進めてきた結果、平成 23 年 3 月の北関東自動車道の全線開通による高速道路の十字軸の完成と相まって、平成 24 年上期の新規工場立地面積が全国第 1 位となるなど、県内の産業集積や雇用の促進に効果を上げることができました。

この程、プランが計画期間の中間年を迎えたことから、本県の更なる発展を目指して、平成 25 年度を初年度とする今後 10 年間の新たな計画として「はばたけ群馬・県土整備プラン 2013-2022」を策定しました。

新プランでは、平成 25 年度に国道 120 号椎坂トンネルの開通、平成 26 年度には過去 50 年来の懸案であった東毛広域幹線道路の全線開通による東毛軸のミッシングリンクの解消などを予定するとともに、西毛広域幹線道路、上信自動車道、上武道路などの整備促進等を盛り込んでおり、地域の利便性の向上と産業振興などが、一層、目に見えて加速すると考えています。

また、新たに、千年に一度といわれる東日本大震災を教訓とした防災対策、進展する人口減少・超高齢社会におけるまちづくりビジョンを示すとともに、社会資本の長寿命化計画による維持管理・更新コストの削減や新規建設コストの削減などを盛り込みました。

巻末には、各地域別の具体的な事業の進捗を今回新たに掲載したところであり、事業の完成年度も明記しましたので、各地域の将来像をご覧になっていただき、地域を活性化する取り組みに役立てていただきたいと思います。

県では、新たな県土整備プランに基づき、県民の皆さんの利便性向上はもとより、本県経済の活性化や観光振興に向けた社会資本整備を推進して参りますので、引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

平成 25 年 4 月

群馬県知事

大澤正明

# はばたけ群馬・県土整備プラン【2013-2022】目次

序	1
<b>I 基本構想</b>	<b>3</b>
第1章 5年間の成果	4
1-1. 目標を達成した指標	4
1-2. 目標に向けて進捗している指標	6
1-3. 目標達成が遅れている指標	7
第2章 社会資本整備を取り巻く状況	10
2-1. 社会・経済・自然環境の変化	10
2-2. コスト縮減の必要性	13
2-3. 投資の選択と集中の必要性	14
第3章 目指す将来像と政策方針	15
3-1. 将来像の実現に向けた取り組みの体系	15
3-2. 県民の生活がこう変わります	16
<b>II 基本計画</b>	<b>21</b>
第1章 計画期間及び計画目標	22
1-1. 計画期間	22
1-2. 計画目標	22
第2章 具体的な取り組み	24
2-1. 元気:もっと、県土に活力を（【主要施策】7つの交通軸構想「軸の強化」）	24
(1) 「7つの交通軸構想」の整備推進	26
(2) 経済の発展と雇用を創出する道路ネットワークの整備	26
(3) 観光地への誘客力向上と野菜王国を支える交通基盤の整備	27
(4) スマートICの設置による高速交通へのアクセス強化	28
(5) 建設コストの縮減による投資余力の確保	29
○ 取り組み指標の現状と将来の目標	30
2-2. 安全:もっと、暮らしに安全・安心を （【主要施策】安全4分野「豪雨、地震、火山噴火、交通安全」対策）の推進	32
(1) 被害が発生した地域や人口・資産が集中する地域の治水対策	34
(2) 病院・老人福祉などの施設や避難所を守る土砂災害対策	36
(3) 孤立地区解消対策など災害に強い道路整備	38
(4) 県民の生命と財産を守る橋梁・住宅等の耐震化	39
(5) 中核的な医療機関への所要時間短縮を図る道路整備	39
(6) 県庁と地域の拠点を結ぶ道路の防災対策	40
(7) 県立公園の活用などによる都市の防災機能の強化	40
(8) 災害発生時における迅速な人的支援体制づくり	40
(9) ハード・ソフト両面からの火山噴火対策	41
(10) 通学路の優先的歩道整備	42
(11) きめ細やかな交通安全対策	42
(12) 社会資本等のバリアフリー化	43
(13) 社会資本の長寿命化などによる安全対策	44
○ 取り組み指標の現状と将来の目標	47
2-3. 魅力:もっと、県土に魅力を（【主要施策】ぐんま“まちづくり”ビジョンの推進）	48
(1) アクションプログラムによるぐんまらしい持続可能なまちの実現	50
(2) 人口減少を前提とした土地利用計画にあわせた公共交通などの再構築	51
(3) 地域の誇れる個性・暮らしを支える魅力的な「まちのまとまり」づくり	53
(4) 既存施設の利活用等によるまちなか居住の促進や集客施設の誘致	55
(5) 「ハッ場ダム」建設地域の新たなまちづくりの支援	56
○ 取り組み指標の現状と将来の目標	57
2-4. 環境:もっと、良好な環境を（【主要施策】群馬県汚水処理計画の推進）	58
(1) 汚水処理人口普及率向上のための効率的な整備の促進	60
(2) 自動車利用からの転換による地球温暖化防止への貢献	62
(3) 廃棄物の排出抑制による環境負荷の低減	63
(4) 再生可能エネルギーの有効活用	63
○ 取り組み指標の現状と将来の目標	64
第3章 プランの成果の検証と確認	66
○ はばたけ群馬・県土整備プランを実効性のあるものにするために	66
<b>主要事業箇所図</b>	<b>67</b>

# 序

「はばたけ群馬・県土整備プラン」(以下、「県土整備プラン」という。)は、群馬が未来に向けて大きくはばたいていくために、平成20年度から平成29年度までの10年間「ぐんまの社会資本整備はどのようなやり方で、何を整備していけばよいか」という県の指針として、平成20年3月に策定しました。

計画期間の中間年を迎えた今、東日本大震災の発生など大きく変化する社会・経済・自然環境への対応を図るため、計画期間を5年間スライドさせ、平成25年度から平成34年度までの新しい県土整備プランを策定するものです。

県土整備プランは、第14次群馬県総合計画に基づく県土整備分野の最上位計画です。

## 【全体構成】

### I 基本構想

#### 【第1章】5年間の成果

目標を達成した指標

- 緊急輸送道路内橋梁の耐震化率
- 浸水想定区域図作成など4指標

目標に向けて進捗している指標

- 東毛広域幹線道路の供用率
- 土砂災害警戒区域の指定など22指標

目標達成が遅れている指標

- 公共交通機関の旅客輸送分担率
- 污水处理人口普及率など10指標

#### 【第2章】社会資本整備を取り巻く状況

社会・経済・自然環境の変化

- 地域間競争の激化
- 東日本大震災を踏まえた防災対策
- 甚大な被害をもたらす豪雨などへの対応
- 人口減少、超高齢社会に対応したまちづくり

コスト縮減の必要性

- 増大する社会資本ストックの維持管理・更新費への対応
- 新規建設に関するコスト縮減

投資の選択と集中の必要性

- 選択と集中による効率的・効果的な事業の推進
- 事業完成年度の公表による民間投資や企業誘致の促進

#### 【第3章】目指す将来像と政策方針

自然と共生し、未来に向けて、持続的にはばたける地域

### II 基本計画

#### 【第1章】計画期間及び計画目標

平成25年度から平成34年度までの10カ年計画

##### ■元気「もっと、県土に活力を」

「7つの交通軸」の整備を推進するとともに、高速インターアクセス道路や主要な交差道路、軸間連絡道路の整備など「軸の強化」を図り、県民生活の利便性向上と経済・産業活動の基盤を強化します。

##### ■安全「もっと、暮らしに安全・安心を」

東日本大震災を教訓にした震災対策や近年多発する豪雨対策など、従来からのハード整備に加え、警戒避難体制の確立やハザードマップの見直しなどのソフト対策の充実を図り、社会資本整備の最も重要な使命である「県民の安全・安心」を守ります。

##### ■魅力「もっと、県土に魅力を」

人口密度の低い市街地が広範囲に形成された本県では、暮らしやすい県土の形成に向けて、駅などの交通結節点における“まちのまとまり”づくりや土地利用計画に合わせた公共交通ネットワークの再構築などを進め、ぐんまらしい魅力ある“まちづくり”を推進します。

##### ■環境「もっと、良好な環境を」

水源県ぐんまの水環境を守り、良質な水資源を安定的に供給するため、河川等公共水域の水質を保全する污水处理施設整備を推進します。また、住環境改善に向けて、自動車利用から他の交通手段への転換など県民の良好な生活環境を確保します。

#### 【第2章】具体的な取り組み

元気：7つの交通軸構想「軸の強化」

安全：安全4分野「豪雨、地震、火山噴火、交通安全」対策の推進

魅力：ぐんま“まちづくり”ビジョンの推進

環境：群馬県污水处理計画の推進

#### 【第3章】プランの成果の検証と確認

県土整備プランを実効性のあるものにするために、「1年ごとの点検」、「おおむね5年ごとの検証(更新)」